

クリスマス、

エミに気がつく人になろう

野毛山キリストの教会牧師  
野毛山幼稚園園長 奈良昌人



今年、米国MLBドジャースの大谷翔平選手がナショナル・リーグ3年連続4度目の年間最優秀選手賞(MVP)を満票で受賞しました。レギュラーシーズン、ポスト・シーズン、ワールドシリーズ、全てにおいて投打で大活躍した大谷選手の姿は、野球ファンだけではなく多くの人々に喜びと感動を与えてくれました。この大活躍の陰には大谷選手の鍛錬、努力があることに間違いはありません。大谷選手は高校時代に『ドラフト1位』『8球団』を目標とした「マンダラチャート」を作っていますが、その周りには8つの目標とするキーワードがあり、そのキーワードごとに8つの具体的な項目が記されています。野球技術の向上のためのキーワードの他に『運』『人間性』があり、『運』の周りには「あいさつ」「ゴミ拾い」「部屋そうじ」「道具を大切に使う」「審判さんへの態度」「プラス思考」「応援される人間になる」「本を読む」と書かれています。そういえば、試合中のグラウンドでゴミを拾う大谷

選手の姿がクローズアップされていたことがありました。誰も気に留めない小さなゴミ、落ちていることさえ気づかれないゴミです。昨年亡くなられた本園の教育アドバイザーの永井裕先生が以前、このゴミ拾いについて学校現場でのことを教えてくださいました。「ゴミに気づかない」という言葉は、教室、廊下、階段、校庭、公園など、いたるところで生じる問題です。教師は「ゴミを拾いなさい」と日々指導するのですが、「ゴミを拾いなさい」と言えば言うほど、言われなければ「気がつかない」という問題が深刻化していきます。つまり、ただゴミを拾わせるだけではなく、さして苦労はしませんが、自らゴミに気づいたり、このままではイヤだなどを感じたり、拾おうかなと迷ったり、そういう『感性』を育てることはそう簡単にできることがあります。そこで、学校現場で大切にしたいことは、「大谷選手のようにゴミを拾いなさい」ではなく、「大谷選手のようにゴミに気がつく人になろう」という指導を大切にしていきましょう。そして、気がついた子どもを大いにほめていきましょう。」ということでした。これは、子どもが自発的に主体的に行動することを応援していくましょうということです。言わなければ行動できないではなく、永井先生が言われるよう簡単に

できることがあります。胎児の時期から小学1年生までの『はじめ』の100か月の育ちが深く影響します。「自分がちゃんと受け止められているか」と言ふことが大切で、幼児期に「幸せ」と感じている子どもは、その後、「今」も幸せを感じることができます。つまり、自己肯定感が養われるのです。ゴミと言えば、年長すらん組の数人が一学期から「ハウス・クリーニング」という遊びを今も続けていて、遊びが深まってきています。が、いつもワクワクしていくととても幸せそうです。そのワクワクに他の子どもたちも巻き込まれていってみんな幸せそうです。私たちは、子どもたちが幸せ（Well-being）かどうかという観点を持ち、子どもおとなも楽しくてしようがないという幸せを味わいながら歩んでいきましょう。

もうすぐクリスマスですが、救い主の誕生を真っ先に知られたのは世間からは罪人と蔑まれていた羊飼いたちでした。この羊飼いたちに神さまは真っ先に「救いの御手」を差し伸べてくださり、羊飼いたちは飼い葉桶の赤ちゃんイエスさまに出会い、神さまを讃美しました。

羊飼いたちが認められ定めた定存い「幸せ」をいただいた満たされ

メリーカリスマス！

